

Title	編集後記 (泌尿器科紀要 第46巻第12号)
Author(s)	
Citation	泌尿器科紀要 (2000), 46(12): 928-928
Issue Date	2000-12
URL	http://hdl.handle.net/2433/114414
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

4. 論文の訂正：査読審査の結果，原稿の訂正を求められた場合は，40日以内に，訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて，前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること，なお，Editorの責任において一部字句の訂正をすることがある。
5. 校正：校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
6. 掲載：論文の掲載は採用順を原則とする。迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること。
 - (1) 掲載料は1頁につき和文は5,500円，英文は6,500円，超過頁は1頁につき7,000円，写真の製版代，凸版，トレース代，別冊，送料などは別に実費を申し受ける。
 - (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は30,000円，6頁以上は1頁毎に10,000円を加算した額を申し受ける。
 - (3) 薬剤の効果，測定試薬の成績，治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については，掲載料を別途に申し受ける。
7. 別冊：実費負担とし，著者校正時に部数を指定する。

Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, key words (no more than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer · PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, the director's name, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details, refer to a recent journal.

編 集 後 記

いよいよ20世紀が終わり新しい世紀が始まろうとしている。先日のテレビ番組で「今世紀の10大ニュース」という特別番組を見たが，日本人の今世紀3大ニュースは，3位がアポロ11号の月面着陸，2位が広島長崎の原爆投下。1位は第2次世界大戦ということであった。京都大学の学生アンケートでは，20世紀は“科学技術の世紀”“戦争の世紀”という答えが圧倒的に多かったという。私なりにもう一つ付け加えるなら“スピードの世紀”であろう。情報伝達を含めた色々な面において，人間の時間感覚は並外れた早さになったと思う。以上を集約すると，20世紀の人類史の特徴は，急速な科学技術の発展とそれを応用した戦争の世紀であったといえる。科学技術の進歩のスピードに人間の理性が追いついていけなかった結果ともとらえることが出来る。我々はこれを反省し，次世紀に活かすことができるのだろうか。21世紀は生命科学の世紀になると予想している。太古から現在まで生物(DNA)は自然に依存した偶発的な変異の力を借りて姿・形を変えながら適応してきた。しかし20世紀の後半，人間は遺伝子組換えとクローン動物の作成に成功した。利己的遺伝子説を借りるなら，“DNAは自然の力を借りることなく自分を変えることの出来る乗り物(人間)をついに手に入れた”ことになる。DNAにとっては画期的な出来事で，このようなおもしろい実験を21世紀においてDNAが見逃すはずがないように思える。DNAの挑戦を人間の理性はどのようにうけてたつのだろうか。

生命科学の進歩が医学に応用され，人間がさらに幸福になることを望む気持ちは強いが，いっぽうでは誤った方向へ進んでいるのではないかという不安もある。科学技術の進歩とその応用のスピードを人間の理性が十分に追いついていけるだけのペースに戻すことが求められているのかもしれない。それには我々自身が知らない内に身につけてきた時間感覚をもう少しゆっくりとしたものにもどす必要もあろう。京都では今年の年越しに大文字の送り火が催される。大文字の送り火に幸福感あふれる落ち着いた21世紀を祈りたい。(小川 修)

泌尿器科紀要 第46巻 第12号 2000年12月25日 印刷 2000年12月31日 発行
 発行 小川 修 顧問 吉田 修 発行所 泌尿器科紀要刊行会
 〒606-8392 京都市左京区聖護院山王町18 メタボ岡崎301号 電話 (075) 752-0100
 FAX (075) 752-0190

印刷所 山代印刷株式会社 京都市上京区寺之内通小川西入
